

平成 27 年 1 月 10 日開催 第 118 回起業の鉄則研究会 議事録

起業の鉄則研究会(リーダー: 小林宏至副会長)

平成 27 年 1 月 10 日(土) 14 時から甲南アセット大開ビル別館 5 階会議室にて講師とも 32 名が参加され、本年度 10 回目(通算 118 回目)の起業の鉄則研究会が開催。

1 部は、新年にあたり経済問題を踏まえた株式相場の見通しなどを知ることができた講義でした。2 部は起業の鉄則研究会発足当時から、運営にご尽力いただいている松本講師の当研究会とご縁の深い出会いを通じた人生の切り開き方と、これからの創業者支援についての講義。

どちらの講義もここでしか聞けない、国際情勢が目まぐるしく変化するなど、起業家として生きるためのヒントになる知恵・知識・人脈づくりについて、笑い話をまじえつつ質疑応答も活発な内容でした。参加者は、看板業、3D プリンタ起業家、飲食店経営者、IT 経営者、不動産経営者、大学教授、ネット事業者、介護事業者、税理士、証券会社社員、社会保険労務士、病院幹部職員、経営コンサルタントなど様々な業種の方々が参加されました。

◆【第 1 部】

「まだまだ上がり続くか新年相場。続編 アベノミクス大解剖」

講師：株式会社 ヴィーナズアセットコミュニケーションズ 土佐 浩史 氏

- ・日銀が株式市場に介入する際は、1 日当たりおよそ 350 億円買入れしている。
- ・最近の日本の株式市場は、外国人投資家の売買代金のシェアが約 7 割を占めている。日銀が買入れした場合でも、外国人投資家の売買代金にははるか及ばない。
- ・株式相場の好材料は、日銀の大胆な金融政策、米国の好景気、原油安である。
- ・悪材料は、ロシア、ギリシャ、EU の景気後退など
- ・魅力ある銘柄は、世界に通用するグローバル企業と価格破壊銘柄を見ている。

◆【第 2 部】

「還暦を迎えて ～すべては人との出会い～」

講師：関西国際大学 経営学科 准教授 松本 茂樹 氏

- ・第 1 回の起業の鉄則研究会から参加させていただいていた。
- ・自転車の車輪のスポークとハブ。know how は知らないが、know who なら自分もできると意識して、このスポークとハブとのつながりのように人とのつながりを広げている。兵庫県と島根県とを結び付きコーディネーターから地域活性化のお手伝いを始めた。今年は区切りの年であり、相生のど根性大根の宮崎さんや、神戸ベンチャー研究会などのお世話がハブとなっている。そういった活動を通じて、せこいことをしていると何もならないなと感じている。
- ・ブルースリーが大好きで、子供のころは手製のヌンチャクを作ってまねていた。少林寺拳法部のある神戸商大に入学。当時は中国では衰退傾向にあった少林寺拳法を日本に広めた宗道臣氏を知り、魅かれていった。兵庫銀行時代には、長谷川寛頭取の掲げた「他利己忘」が好きであった。商売においても倫理を大切にしている甲南アセットの小林社長、関西でのベンチャー研究会の中心の神戸商科大学の小西先生との出会いで運命が変わる出会いである。これからも、スポークとハブとのつながりを大切にしていきたい。

・小林塾長からの講評

私自身も 40 年間の人との出会いによって今日までこれた。ここまでこれたのは、子供の頃からの志が強かったからかなと思っている。夢を実現したいと思い、会社を突然辞めたけれども、起業当時は地べたを這うような生活もした。修羅場も何度もあったが、その都度あきらめ

なかったことと、出会いがあって、乗り越えられてきている。夢はだんだん膨らみ続けるが、体力は年を重ねるごとに落ちていく感じがする。人生の勝者というのは、長生きができる人だと感じている。会社時代でも、周りからあの人は優秀だといわれる人は多くいた。しかし、仕事疲れから倒れてなくなってしまうことがよくある。そういうのをみると、長生きが一番だと感じてしまう。最近是人を育てようと頑張っている。自分が手掛けた仕事が、ずっと続く仕組みができればいいと思って、取り組んでいる。公の企業にしようとする、コンプライアンスの問題に直面する。それと向き合いながら、収益をあげるには知恵がいる。借入れで必要な利回り以上の収益を上げないと、会社は成長できない。

終了後、近くの料理屋「雄司」で懇親会を実施。今回の懇親会では、小林塾長、講師の松本氏、事務局の吉田氏が記念すべき節目を迎えられ、皆さんからの寄せ書きを添えて、普段の運営の感謝をねぎらう場となった。合わせて、起業をめざす方々にとって、創業時に直面しがちな失敗や、人脈づくりなどの情報交換ができた懇親会となった。

次回は2月14日大阪会場にて開催予定。

